



心はキラキラ...

私は方向音痴である。生まれてこのかた羽ノ浦町を出たことがないにもかかわらず、近くの団地に行くと必ず道を間違える。それならとカーナビを付けてみたが、音声に従ってうまく道を曲がれない。そんな私に



羽ノ浦町
千田 弥生さん

「落ち着いて車に乗ってられない。」と、よく愚痴られたものだ。徳島市内は今でも未開の地であり、高速道路を走るとは夢のまた夢である。そんな私が一人旅をすることになった。きっかけは、長男が県外の大学に進学したこと。普通のバスがあったが時間が合わず、公共交通機関を乗り継ぐことになった。

車の旅でないとはいえ、超難関の旅に変わりはない。

一抹の不安を抱えてのスタートとなったが、一歩踏み出せば意外と楽しく感じられた。気持ちも大きくなり勇気が湧いてくる。もちろん、道には迷ったが、人に道を尋ねながら目的地をめざした。お土産を買って帰路に就くころには、心は楽しさと自信で満たされていた。

それまで無理だとあきらめていた一人旅も、いざ挑戦してみると意外といけるものだ。出会った人に感謝して珍道中を振り返ってみた。また行きたいな

。自然にそう思えた。方向音痴は今も相変わらず。それでも、落ち込まず、諦めず、やりたいことに挑戦したいと心はキラキラ輝いている。心の迷いはなくなったようだ。

次は、羽ノ浦町の篠原早耶さんにお願います。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭
短歌大会作品

入選

新居 久子

葡萄園に並ぶひ孫の膝小僧指先もあら口も紫
林 ヤス子

入選
葬送の車の窓に白き蝶右に左に別れをおしむ
森 ゆき子

お四国を終えて結願大窪寺見上げる大師の口
もとの笑む
西崎まき子

法要の部屋に咲きつぐ百合の蕊異端のごとく
不気味に光る
山田ノブコ

子房残す役目終えてほろほろと地に還りゆく
梨の花びら
小熊 節子

もみじせし桜葉散るを見ておりぬ秋を織りな
す姫の舞かと
中原 一

草も木も焦すばかりの精霊会ちちは馬追虫と
なりてもどおりつ
大西 樫木

俳句

阿南市俳句連合会選

裸婦像の身を振り居り寒もどり

手を止めて顔を見合わせ初音聴く
長谷川葉月

立てる今歩ける今を青き踏む
浜口 令子

声変わりする子一口桜餅
中川よし子

雪音譜眺めて唄う阿波民謡
池内 明美

猫の恋何の騒ぎと問う子かな
山川 喜美

婚の荷の花嫁菓子と春配る
鎌矢美代女

如月の波がうちけす海士の笛
神野 利津

早春の明るさ揃う舞扇
数藤 君子

啓蛰の土盛り上げてもぐら道
山上 侯代

川柳

阿南市川柳会
高木 旬笑 選

薬局でお元気ですかといわれても
原 公美子

欲捨てて遊びなはれと魔女の声
野村 敏子

必要とされて嬉しい精がでる
持木 寿栄

乾杯を何度聞いたか酒の席
橋本 征介

年重ね手よりも口がやかましい
岡本 福笑